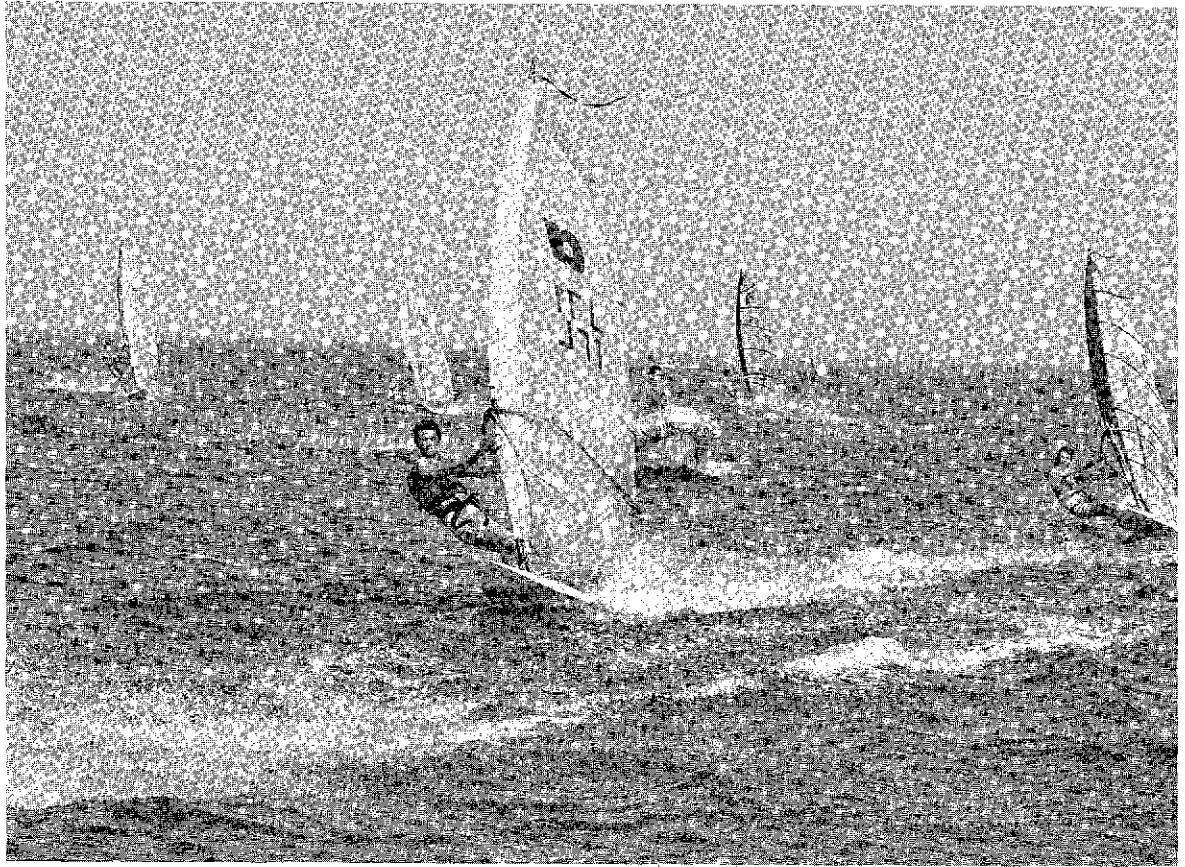


新潟県

平成4年

# 公民館月報

8月  
第474号



マリーナの  
舟か白帆や  
夏の雲

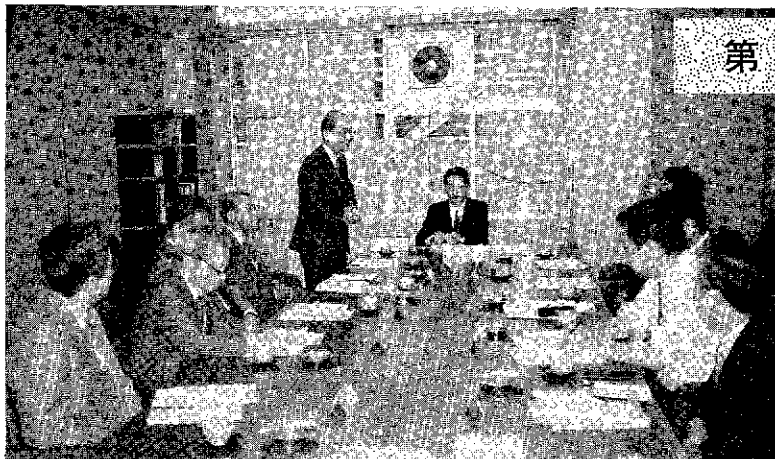
(俳句ポストより)

柏崎の夏は、若者を中心にマ  
リンスボーツが盛んである。  
今年も、第3回ホードセーリ  
ング越佐海峡横断フェスティバ  
ルが開催され、柏崎の海は躍動  
の季節を迎えた。

(資料提供)

柏崎市中央公民館

### 第2回 理事会開催



## 表彰選考終わる

# 優良公民館は三館 永年勤続者表彰は七氏に

今年度第二回理事会が、六月二十二日(月)十三時から、新潟市中央

公民館会議室で開催された。役員改選後の最初の理事会と

いうこともあって、全理事出席で、定刻五分前に開会された。自己紹介によ

り相互の面識を深め、終始和やかな雰囲気

で、定刻五分前に開会された。自己紹介によ

り相互の面識を深め、終始和やかな雰囲気

で、定刻五分前に開会された。自己紹介によ

り相互の面識を深め、終始和やかな雰囲気

で、定刻五分前に開会された。自己紹介によ

り相互の面識を深め、終始和やかな雰囲気

で、定刻五分前に開会された。自己紹介によ

り相互の面識を深め、終始和やかな雰囲気

で、定刻五分前に開会された。自己紹介によ

り相互の面識を深め、終始和やかな雰囲気

で、定刻五分前に開会された。自己紹介によ

り相互の面識を深め、終始和やかな雰囲気

で、定刻五分前に開会された。自己紹介によ

#### 優良公民館表彰受賞館

- 柏崎市荒浜公民館
- 柏崎市半田公民館
- 新潟市関屋地区公民館

#### 永年勤続表彰受賞者

(敬称略)

- 大久保 三吉 中魚川西町公民館
- 山本 チヨエ 西蒲西川町公民館
- 島山 ミツ子 西蒲西川町公民館
- 金子 美枝子 柏崎市黒姫公民館
- 川瀬 藤作 三条市中央公民館
- 岡田 キン 三条市大崎公民館
- 小日向 益雄 三条市大島公民館

## 第43回新潟県公民館大会開催要項

テーマ 地域づくりに果たす公民館の役割～地区館・分館等の充実強化を目指して～

- 趣旨 公民館は、市町村における生涯学習の中核施設として、きわめて重要な役割を担い、住民からの期待もますます大きくなっていきます。その期待に応えるためには、一方では生涯学習の推進センターとしての施設機能を整備充実する課題と、他方では地域の隅々まで生涯学習を推進する課題への取り組みがあります。このうち、当面の課題である「地域づくりに果たす公民館の役割」を明らかにし、公民館事業の一層の充実、とりわけ、地区館・分館(類似館を含む)の活動の充実強化を図る必要があります。そこで、県内の各地から実践や問題を持ち寄り研究討議を深め、住民の期待に応える公民館として一層の充実発展を図るものとなります。
- 主催 新潟県公民館連合会
- 共催 新潟県教育委員会、新潟県公民館振興市町村長連盟
- 主管 佐渡地区公民館連絡協議会
- 後援 新潟県教育委員会
- 日時 平成4年10月28日(水)～29日(木)
- 会場 阿津市市民会館
- 参加者 市町村長、同議会議員、同議会議員、同教育委員、同社会教育委員、同公民館運営審議会委員、同公民館長
- 実践発表 新井市公民館社会教育指導員 大 口 昭 治、刈羽郡高柳町公民館運営審議会委員 村 田 澄 雄、佐渡郡金井町公民館副館長 内 野 健 二
- 指導講師 国学院大学教授 堀 恒 一郎
- 日程 1日 受付、開会式、実践発表、質疑と討論、会場移動、夕食、情報交換
- 2日 指導講話、閉会式、解散
- 参加費 13,500円(内訳 資料代 1,500円、宿泊費 12,000円)
- ★第1日目の昼食は希望者のみ600円で幹旋します。
- ★情報交換のみの出席者は7,000円
- 申し込み 参加希望者は、9月16日までに阿津市公民館(阿津市榑津2314)に申し込んでください。

関プロ公研大会第四分科会

問題提起は山田隆氏

(新潟市中央公民館 社会教育主事)

来る九月三・四日に秩父市で開催される第33回関東甲信越静公民館研究会が間近になってきた。

この研究会の分科会のうち、当県の担当する部会は第四分科会(成人男子の学習と活動)で、司会は堀内清氏(新潟市中央公民館館長)、発表は山田隆氏(新潟市中央公民館社教主事)、助言は相庭和彦氏(新潟大学教

育学部助教授)である。なお山田社会教育主事が発表する問題提起の要点は次のようである。

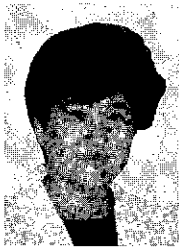
①成人男子は、社会的に、家庭的に学習のための時間を見出しにくい層として、ややもすると、公民館の学習対象からスポイルされる傾向にあるが、学習の間、内容、方法の工夫によって、高い成果が期待できる。

辛口

人生八十年 何歳になっても学習の喜びを知る人は幸せであると思う。

地域社会における学習の基地公民館。

その学習の場に参加することに、友の輪は広がり、地域社会



真の豊かさ

山田 年子

会を知る。もし、そこで学び得たものを地域社会に還元できたなら、その人の人生は、もっとも豊かなものになると思う。利用者

員は、その人の人生は、もっとも豊かなものになると思う。利用者

利用者と公民館関係者が一つになって、生涯学習、地域学習を推進していくならば、真に豊かな地域社会を作ることができると思う。

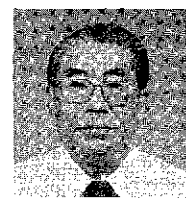
喜びを一人でも多く分けてやってほしい。関係職員の苦勞も並大抵のものではない。今後ますます仕事の量も範囲も広がっていくものと思われる。職

公民館関係者も、ただ講座数を増すだけでなく、そのリーダー養成に心を砕いてほしい。人が育てば、地域社会も育っていくと思う。

そのためには、公民館関係者はPR活動を活発にし、住民の学習意欲を鼓舞し、共に育ち育てることによって真に地域社会を作る担い手になってほしいと望むものである。(南蒲栄町公民館 運営審議委員)

学校週五日制の対応は

村上 一三



一般労働者は、週休二日制の導入により、労働時間の短縮が労働

改善といわれているが、学校週五日制とは、一週間の開校日を五日とする制度。

昭和四十九年以後活発に論議されていた、といわれていますが、学校週五日制は、労働者の週休二日制に関連して論じられる場合が多く、労働条件の改善と知的授業の偏重している現在の学校教育をあらため、土曜日を児童生徒の社会活動にあてようとするもので、世論にも賛否両論はあった事と思われる。

ひろば

私たち運営審議会では、委員による、学校週五日制対応小委員会を設置することに決まり、学校開放、社会教育施設の開放、保護者による家庭からの要望等も耳にし、生涯学習の観点から、児童生徒も、社会活動の一員としてその地域に適合した事業を小委員会にて討議し、児童生徒が自主的に選択し、多くの参加を得られる様な対応努力を考えている。

この制度実施日が早急に決定されたかに思われる。私たち地域住民には、対応策の考える時間もなく、実施日を迎える事になる。学校教育法でいわれている、学校の児童生徒の休校日を、同一に社会活動にあてようとしても無理が生ずる。

行政、関係機関の指導のもとに学校、家庭、地域社会の連携を密にし、地域内では身体上の安全、教育面では学力差の問題、非行防止のため社会環境の整備等を念頭に勘案が切迫しています。

(新潟市北地区公民館 運営審議会 委員)

# 五日制と公民館 応あれこれ

民館の実務者から取材したもの  
その後の対応の変化には触れて  
館月報」から再掲)

はじめに

学校週五日制の実施が秒読み  
の段階に入りました。巷では、  
「理念はよく分かるが、実践に  
は問題が多すぎる」とか「準備  
不十分なのになぜ急ぐのだ」と  
大揺れにゆれながらも、刻一刻  
と施行の日が近づいてきます。  
そこで、公民館がこのことに  
どう対応したらよいか、現状  
を踏まえながら話し合っていた  
だきました。むろん、当面は月  
一回の土曜日ということではあ  
りますが、完全実施を想定して  
の対応についてです。

## 一、住民の反応は

聞き手 最初に住民の反応はど  
んな状態なんですか。

A 新聞情報によりますと、全  
国の世論調査では、賛成49%反  
対44%と報じられています。N  
市では、特別の調査はしていま  
せんが、一般的な感触としては  
同じような反応を示している  
と思われます。

聞き手 反対の理由というのは、

B 小学生でも低学年と高学年  
の親では随分違うでしょうし、  
中学生の親ともなれば、進学の  
問題など差し迫った問題を持っ  
ているわけですから一概には言  
えませんが反対の多いのは、学  
力低下への不安と非行増大の問  
題、それに、県内の企業の週休  
二日制の実施率は一〇%程度で  
すから共働きの家庭が多く留守  
家庭の問題が大きな比重を占め  
ることになりましよう。

C 町村部では、学力低下の問  
題意識は都市部ほどには敏感で  
はなさそうです。また、比較的  
お年寄りのいる家庭が多く留守家  
庭になる割合が少ないことなど  
から、一般の住民の不安感は一  
般に多くはないのではないかと  
思います。

D 小学生の場合、塾通いが多  
いとか、多くなるという不安を  
指摘するようですが、これは入

試地獄だからといったものでは  
なく、塾が遊びの場という意識  
の方が強いというふうに聞いて  
います。

E 私の町でも同様です。友達  
との遊びの場であり交際の場が  
必要なんです。親はどこかへ預  
かってもらえれば安心していら  
れる。

聞き手 そこで、公民館もまた  
遊びの場として浮かんでくるわ  
けですね。



住民の身になってみると、子  
供の教育は学校が全てやってく  
れるもの、学校がだめなら社会  
教育の施設があるではないか、  
と行政依存の意識のままとい  
うことですね。すると、公民館に  
もいろいろの注文が寄せられる  
ことになりましよう。

## 二、行政の対応は?

聞き手 行政ではどんな対応を  
進めているのですか。

F 私の市では、「学校週五日制  
に関する地区協議会」を結成中  
です。これは、学校と地域との  
接点を持つため、小・中学校、  
PTA、関係団体、町内会、公  
民館などの代表で構成され、具  
体的な対応を検討することに  
なっています。

G 町村部でも「学校週五日制  
推進協議会」などの組織がす  
でにできているところや、これ  
らのところもありましようが、  
早晚どこでも組織化されるだ  
ろうと思います。

聞き手 では公民館は、

H ある市の場合、第二土曜日  
の午前中を「学校開放」の日と  
しているわけですから、多くの  
子供たちは、開放された学校を  
利用することになるのでし  
ょうが、その中の何割かの子供  
が公民館にやってくる。だから、  
やってきた子供たちが喜んで利  
用(学習)するような事業を用  
意する必要があります。

I 町村部は都市ほどには住民  
の不安感が少ないせいでしょう  
か、私の町では今のところ、「学  
校開放」については聞いていま  
せんし、公民館でも特別のこと  
は考えていません。

町の教育長の見解は、「学校か  
ら、家庭や地域に返すのが先決  
で社会教育の対応はその後のこ  
とと言っています。ですから、  
親や地域から要望が出てこない  
うちに公民館が進んで受皿にな  
るといふのはどういふもので  
しょうか。でも、従来日曜日に  
やっていた子供向けの事業の中  
から(九月以降には)一部を土  
曜の午前に戻すような検討は進  
めています。

聞き手 そうすると、どちらか  
という都都市部に問題がある  
ということですか。

それにしても、いまままで公民  
館が子供に対して実施してきた  
事業、例えば「体験学習」だ  
とか、子供たちを含めた「世代間  
交流事業」「地域ぐるみ環境整備  
事業」など、たくさんさんの事業  
があります。これらの中から、  
土曜の午前中に実施できるもの  
を実施するというのでは足り  
ないのですか。

J 基本的にはそれでいいので  
すが、これまで、教育と言え  
ばすべて学校の責任といった風潮  
があったわけですから、それを、そ  
うではなく、家庭や地域に返そ  
うというものですから、家庭や  
地域の教育的役割として「みん  
なで考えましよう」という狙い  
があるわけですね。  
K 地域の中には、地域子ども

# 週学校ふう談座 —公民館の対—

この記事は、去る6月中旬に公民館を訪問し、公民館の現状と今後の展望について、公民館関係者から話を聞いたものです。(写真は既報の「公民館」)

しかし、家庭や地域に返すといっても、現時点では家庭も地域も受けとめる状況にない。とすれば、行政が対応せざるを得ないというのが現状です。したがって、ある市では、中央公民館のホールを体験学習のフリースペースとして開放するとか、地区公民館ではホール・講座室の開放ということが計画されていますし、分館も可能な限り開放するように言われています。

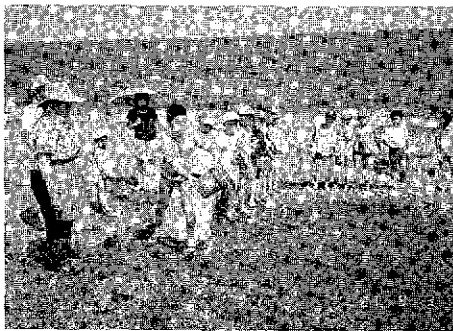
その具体的な手立てとして、「ブレイリダー」を一館当たり三人(大学生のアルバイトや地域有志)をボランティアリーダーとして委嘱するというものです。土曜の午前、公民館の開放時に、やってきた子供たちにレクリエーションの指導をするわけです。(そのため、目下研修中とか)しかし、言ってみれば、土曜の午前中、子供たちを遊ばせてやるといった発想にならざるを得ないと思います。

聞き手 子供たちを遊ばせてやることは大事なことでしようが、それが公民館の仕事になるのはいかがなものでしょうか。臨時保育所では困る。

M 町村部だと野山の自然に恵まれているので、思い思いの活動ができるわけですが、都市部の人口集中地区では、そこが泣き所というわけですね。だから、

## 四、中学生と公民館

実施の過程で、より多彩な活動を、開発していくことでしょうか。



聞き手 これまでの話は、小学校の子供たちへの対応でした。また、どこでも、幼・小児童対策は比較的具体的なことが話し合われていますが、中学生は土曜日の午前をどう過ごすことになりませんか。自主的に判断もでき

学生は、学校五日制になったらどう過ごしたいかと聞いたたら「ぐっすり眠りたい」という答えが返ってきました。

聞き手 それは決して茶化していいのではなく、大きな問題を提起しているように思います。つまり、眠りたいものはぐっすり眠らせてやりなさい、と言いたいのです。それぐらいの、度量といえますか、大らかさでもないでしょうか、子供の立場にたつての対応が必要です。

P それでは、地域の住民が黙ってしまいませんか。公民館は怠けているとか、やっぱり学校ほど真剣がないと不平や不満をいうに違いはない。

聞き手 そこで、手取り早い方法としてスポーツを取り上げることになるわけですね。話を前に戻して恐縮ですが、「学校開放」が計画されているとか。これは、親達の強い要望によるものなんでしょうか。

人口集中地区では、対象児童や生徒が多いので止むを得ないことなのでしょうが、「まともな面倒を見る」方式的な対応が気になって仕方がありません。今は、限りなく個性化に向かう時代だということに。

「学校開放」だけでは足りずに「公民館開放」という要望も出てくるのでは？

Q 公民館のスポーツ活動というのは、コミュニケーションスポーツとしての軽スポーツやレクリエーション程度のもので、中学生となると競技スポーツが多いから問題があります。また、公民館の体育棟のみを開放するにしても、指導者や(危険防止のための)監視員を用意しなければならぬ。

聞き手 子供たちを一つの計画のなかに組み入れようとするのは危険なことだと思います。子供たちをがんじがらめに縛り付けてしまうことは、学校をスリム化することにはなっても、社会教育がそのしわ寄せを受け、肝心の子供たちの生活にとって少しも変わらないことになりましよう。これでは、教育制度の新しい風にはならない。

R 中学生はスポーツ活動で面倒をみれば、と申しましたが、文化的な面にも興味や関心を持つ生徒も多いと思います。たとえば、「ふるさとの歴史散歩」や「文学散歩」あるいは「音楽の演奏や鑑賞」はまた「体験学習」などに参加させる事業を用意するのが公民館の領域です。さらには、中学生たちに自分の学習したいことを自分で学ぶ姿勢を育てることが公民館の仕事だと思えます。

聞き手 このことは、問題提起

## 三、マクロな対応が必要

L おっしゃるとおりです。

にとどめて、話題を移しました。

五、学校と公民館との連携

S わたしのところでは、先日も職員と話し合ったのですが、公民館が、能力の限界をこえて、自分から仕事を求めるのではなく、学校、とくに中学校の先生方とよく話し合っ、両者が重複するような事業は共同でやる

T 小中学校の先生が、「公民館では今こんな事業をやっているから、希望者は参加しなさい」と勧誘を兼ねて紹介してくれば、これが最も力強い情報提供の手段となります。そういう意味からも学校と公民館との連携は大事になりますね。

U その方策の一つとして、公民館の子供向け事業の企画にあたって、先生方のノウハウを取り入れるとか、事業PRのポスターを学校の掲示板に掲示してもらうとか、情報紙を回覧するなど、連携と協力の方法を工夫しなければなりません。

V 公民館という施設は、子供たちにとって、異年齢集団の活動の場になることが学校とは違った特色を持つ施設のわけですね。だとしたら、先程も申しましたように、プレリーダーの制度の中に、中学生をジュニアリーダーとして小学生を指導する方法を考えるのも一つの方法ではないですか。そのためのリーダー育成に力を入れる。

W そうすれば、指導者不足の解消の一策ともなる。これは、理論的には妙案ですが、実際は難しい。というのは、「部活動」や「学習塾」で忙しいとか、「人前に立ちたがらない」といった心理から中学生をジュニアリーダーとしてあまり期待できないからです。

X 県下の公民館長には、学校教師の定年退職者が多いわけですが、学校週五日制への公民館の対応を考えると、こうした館長の出番ではないでしょうか。というのは、学校のことがよく分かる人が学校の立場と公民館の立場とをうまく結びつけることができるでしょうから、こういう館長さんたちが学校と公民館との連携を強める先頭に立ってほしいものです。

Y 最近三歳児の親子教室がふ

Z 子供の立場から、どう過ごすのかを考えさせたらどうでしょうか。何もかも大人が用意するのでなく、子供たち自身で発想し、子供たちの手で準備し実施する活動を考えたいものです。

最後に一言ずつ



えているので、幼児と接触する機会が多くなって感ずるのですが、三歳の子供でも「公民館」という言葉が意識の中に定着しているようなんです。幼児のころからの習慣形成で公民館が身近に感じるようになると思えます。したがって、小中学生も公

教師の定年退職者が多いわけですが、学校週五日制への公民館の対応を考えると、こうした館長の出番ではないでしょうか。というのは、学校のことがよく分かる人が学校の立場と公民館の立場とをうまく結びつけることができるでしょうから、こういう館長さんたちが学校と公民館との連携を強める先頭に立ってほしいものです。

県子連だよりNO.48号から抜粋

長岡市蛇山子ども会  
(前略)昭和十二年の夏、幼稚園の保母をしておられた、渡辺ヤヨさんという新婚早々の女性が、毎週土曜の夜自宅にワグバクたちを集め、得意の童話、人形劇、わらべうち、ゲーム等で子ども達に明るく希望を与え、以来三十五年間独力で運営し、その後地域で引き継ぎ二十年が経過しました。  
この子ども会は、一人の偉大なボランティアが独力でつくり運営した、その背景からして大人主導型の子ども会でした。  
(蛇山子ども会顧問 大野 貫)

民館に引き付けて公民館の(生涯学習の)予備軍にしたものです。  
Z 子供の立場から、どう過ごすのかを考えさせたらどうでしょうか。何もかも大人が用意するのでなく、子供たち自身で発想し、子供たちの手で準備し実施する活動を考えたいものです。  
聞き手 まことに同感です。その参考資料を「県子連だよりNo.48号」から抜粋しましたのでご覧ください。  
焦点の定まらない井戸端会議になってしまいましたが、その中から、①公民館は己れの能力の限界を知り、能力に応じた対応を考えることが大事だということ。②また、子供たちへの直接の対応とともに、親や地域社会に対して新しい教育に対する啓発のための「大人の学習」も大事だということを感じました。

# サークル交流

作歌は厳しく

遊びは楽しく

五泉市短歌サークル

公民館の短歌教室が開設されたのは、今から約三十七年前の市制施行間もない頃でした。

永い間、公民館教養講座に頼り続けて参りました。

しかし、会員の中から何時までも頼って進歩が見られない、自分達の独自性を發揮しなければと言う声サークルをつくる動機となりました。

そこで今から約十年前(昭和五十七年) 親睦と友和を目的に



した、公民館短歌サークルを作ろうという会員の一致した合意により結成しました。

サークルと言っても、他の皆さんと比較にならない程、微弱なものです。人の世話にならず、自主性をもった愉しさ、友和を重んじております。その甲斐もあって会員中には「県民文芸」奨励賞、芸術祭賞の受賞者も生れる程に成長しております。

しかし作歌は厳しく、講師と会員の心の交流があつてこそ良い作品が生れる事を痛感し、何時までも清々しく、楽しいサークルに育みたいと努めます。

(五泉市 長谷川 清一記)

採拓の楽しさと

文化的遺産とのふれあい

小須戸町拓本研究會

私たちの小須戸町拓本研究會が公民館の助言を得て発足したのは昭和六十三年四月、当事の参加会員は男性十六名女性七名でした。

年齢は退職人生の余暇活用型のみなさんが多く、最初の採拓実習もこのグループにふさわしく、わが町にある富安風生先生の句碑「生くることやうやくた



のし老の春」でした。

水張りした画仙紙に美しい文字が浮かび上ってくるあの緊張感と感動は得難いものであります。しかし何枚採拓しても二枚と同じ作品が出来ないところが拓本の魅力ともなっています。

平成三年度の活動実績は採拓十回展示と反省会二回見学一回で参加人員は延一〇三人でした。

平成四年度会員は男性十三名女性九名の二十二名であります。

先人の貴重な文化遺産を採拓させて頂き、作品を軸装にして日夜鑑賞できることが拓本の利点であります。文化祭には展示室の一隅に採拓実技を実施して、拓本の知識の普及と会員加入の機会にしております。

(吉田吉平記)

小本町公民館社会教育主事

越前 範 行氏 (31歳)

小本町公民館で四月より公民館主事として活躍中ですが、高校卒業後、役場に職を得てからB&G海洋センター・博物館勤務と教育委員会関係で一貫して勤務し、今回二回目の公民館主事ということもあり、その卓越した事業の企画力・実行力は当町公民館には欠かせないものとなっております。



趣味の幅は広く、十数年続けて

## 素顔拝見

山北町公民館主査社会教育主事

本 間 清氏 (38歳)

公民館は二度めの勤めで、本年度は三年め。気鋭の本間主査を三つの窓からご紹介したい。

一、酒

酒は嗜むといったところであるが、嗜むは特に好むの意味もあるが、主査の場合、度をすぎさない方である。酒を飲むと愉快になり、周りをも楽しくさせてくれる。人を相手とする社交主事が酒を嗜むことは、とても大切なことと思われる。

二、器用さ  
年賀状はもちろん、案内状の

いるバンド活動で、鍛えたノドでロック・民謡・モノマネと同じ歌を二度聞いたことがないといわれるほどのレバトリリーを誇っております。

また、郷土史や山野草などの知識も豊富で、ソバ打ちの達人でもあります。スポーツも万能で、特に沖縄で遊んで覚えた、ヨット・カヌー・水泳などの腕前は、なかなかのものです。

今後も地域の若者のリーダーとして、その若さと情熱で幅広い活躍が期待されています。

(小本町公民館長 金子虎吉郎記)



封筒は、ほとんど毛筆である。のびのびとして、早くうまい。ギターを弾きながら、歌曲も歌う。昼休みには、卓球・庭球に同僚と汗を流す。

三、勉強

大学で経済学を修め、さらに大学院で経済学を専攻したので、学習の方法を身につけていく。般若心経を精読したり、一般教養の習得にも余念がない。

(山北町公民館長 佐藤久憲記)

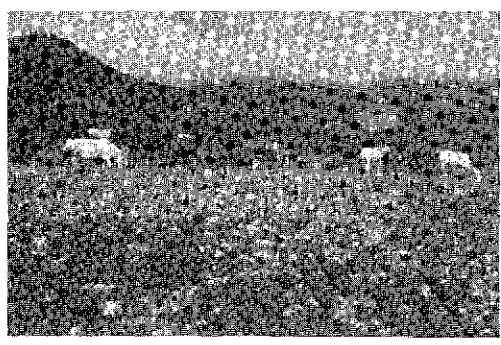


# オープンした 県立図書館・文書館 生涯学習推進センター

去る八月七日、県立生涯学習推進センターが新設オープンした。全国有数の最新機能を備えていると称する県立の図書館ならびに文書館と併設された施設で、県民の期待を担って生涯学習推進の事業が展開されるものと思われる。

ちなみに、当施設を会場として、来る八月二十六日には「公民館等管理者研修」が、主催事業の第三号として実施されることになっている。

交通案内  
新潟駅万代口バスターミナルからは13番線、駅南口からは2番線、それぞれ「女池愛宕行」に乗車、「野球場・科学館前」下車、徒歩3分。



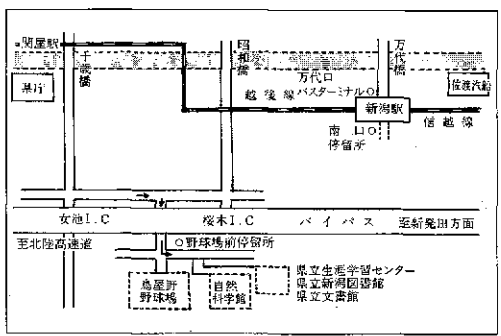
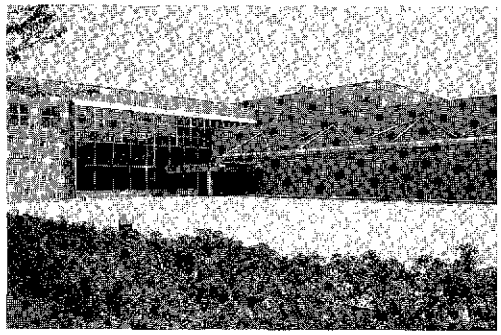
## シルクロードからの便り 白鳥のルーツを探る本田清氏 (当連合会前事務局長)

二転三転のすえ、再度の天山山脈入出許可で急に出国することになりました。

五十℃の灼熱の砂漠地帯から、六月まだ雪の降る天山の白鳥繁殖地まで、TBSのスタッフとともに過酷な旅を続け、六月末ようやく基地に帰投しました。白鳥の育巢生態の撮影にも成功。キジルチ仏洞の白鳥壁画も新たに二十羽以上を発見。このVTRは八月～九月ころ「TBS報道特集」で御覧いただけるものと思います。

このあとTV班はカラマリ砂漠のオオカミを追うこととなります。皆様よろしく。

シルクロードにて 本田 清



### 作品募集

SHIHOI-31111

第2回 新潟県 シニア美術展

出品作品 出

品者により 創作された もので未発表のもの

搬入方法 平成4年9月15日 午前9時 午後4時

新潟県民会館展示ホール

### 今からでも間に合う シニア美術展作品応募

申込先 新潟市新光町七―二 県商工会館6階 新潟県長寿社会振興財団 募集作品 洋画(油絵・水彩・版画) バステルなど) 日本画(水墨画を含む)、書及び写真

応募規格 59歳以上のアマチュア

発行所 新潟県公民館連合会  
【新潟市川端町2-9・県林業会館内】  
【電話・新潟 (025) 224-6073】

発行人 会長 細川 正博  
編集人 事務局長 上村 捨二郎  
【定価1部130円 共々・年極1,560円】

出品料 無料  
展示期間と会場  
平成4年9月17日～23日  
新潟県美術館  
新潟伊勢丹アートホール(写真)

あとがき  
◆暑中御見舞申し上げます。夏休みの超多忙な季節、元気で乗り切りましょう。  
◆県公民館大会の開催要項を掲載しました。振って参加してください。

参加申し込みと参加費の納入が九月十六日〆切り(各公民館から大会事務局へ)となっております。現地宿泊施設の確保上止むを得ない期限です。少々早いように思いますが、事情お汲み取りの上、ご協力ください。  
(上村記)